

『ヒロシマ』が朝日新聞書評に取り上げられました。 『ヒロシマを暴いた男』と一緒に展開ください！

8/7朝日新聞書評に『ヒロシマを暴いた男』が掲載
されましたが、その中で小局刊『ヒロシマ』も紹介
されております。在庫をご確認いただき、一緒に展
開くださいますようお願い申し上げます。



『ヒロシマ』 978-4-588-31630-2
四六判・252頁 2014/5刊 本体価1500円

ヒロシマを暴いた男 米国人ジャーナリスト、国家権力への挑戦

レスリー・M・M・ブルーム〈著〉

高山祥子訳 集英社 1980円

ジョン・ハーシー著「ヒ
ロシマ」(法政大学出版局)
は、原爆投下後の広島を描
いたルポとして読み継がれ
てきた。1946年8月、
米誌「ニューヨーカー」に
丸ごと二冊を使って掲載さ
れると大反響を呼び、刊行
後は各国でベストセラーに
なった。本書はこの作品を
巡るジャーナリストと国と
の闘いを描いたノンフィク
ションだ。当時の証言や史
料を丹念に追い、75年前の
出来事とは思えない臨場感
で読者を引っ張っていく。
ハーシーより前に被爆地
に入った海外の記者は何人
もいた。だが彼は、米政府
は放射線などの人的被害の
報道を矮小化させているの
ではと疑念を持つ。そして
他の記者より1年近く遅れ
て広島に入りながら、住民
や医師の証言を集め、放射
能被害の実態を暴くのだ。
米国では原爆投下を肯定
する世論が圧倒的な中で、
日本の被害を描くのは相当
の覚悟だった。実際、彼は
米ソ両方から批判された。

残る謎もある。編集部は
掲載前、イチかバチかで記
事を検閲に出す。提出先は
原爆開発を担ったマンハッ
タン計画の責任者レズリー
・グロウヴス中将。ところが、
彼はわざわざかな書き直し
を命じただけだった。編集
部はなぜあえてグロウヴス
中将を選び、彼は許可した
のか。著者はいくつかの推
論を提示している。

本書と一緒に、ぜひ『ヒ
ロシマ』を読んでほしい。
この作品は、どこにでもあ
るのどかな夏の情景から始
まる。登場する母親、医師、
聖職者ら6人は、朝食をと
り、職場へ向かう。読む人
は「彼らは自分かもしれない」
と思うだろう。そして
次の瞬間、町は地獄絵図と
化する。細部に及ぶ取材と計
算された構成。世界中で読
まれた理由が見えてくる。

ハーシーは後年、こう語
った。「一九四五年以来、
世界を原子爆弾から安全に
守ってきたのは広島で起き
たことの記憶だった」

被爆者がこの世を去りつ
つあるいま、著者はその記
憶をよみがえらせる大切な
役割を果たしている。

恐怖の実相伝えた報道の舞台裏

評・宮地

ゆう

本社社会部記者

法政大学出版局 行き

F A X 03-5214-5542

貴店名・帳合	法政大学出版局	返条付注文
	<p style="text-align: center;">ヒロシマ</p> <p style="text-align: center;">978-4-588-31630-2 1,500円</p>	冊

*部数を調整させていただく可能性もございますので、あらかじめご了承ください。